

自傷は死ぬためじゃないと思うよ。
でも本気で辛くて
死にたいと思うこともあるのは
事実だよ

[木部ちゃん——耳をふさぎ、安らぎをさがす]より

手首に剃刀を当てる。まるでペンで描くように、
ゆかの手首に赤い線がついていく。
あくまで「取材にきている」ということを思い出し、
シャッターを切った。

[ゆか——トンネルの先に見える薄日]より



“切りたくなるが、できるだけ切れないような剃刀を使う”
矛盾しているようだが、それは凧ちゃんの、
「切りたくなるが、できるならばやめたい」という気持ちを
表しているように思えた。

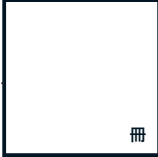
[凧ちゃん——繰り返す日々の営み]より

お母さんはちょっとやさしいことじゃ驚かんのよ。
さすがに私のこの傷見たときは驚いてたけどな……。
でも優しくてなあ、
お母さんのこと大好きよ、私

[さゆり——自尊心のゆくえ]より

申込書

*お近くの書店にお申し込みください。工作舎へ直接申し込みもできます。

書店印	Ibasyo —— 自傷する少女たち “存在の証明” ISBN978-4-87502-490-3 C0036	 冊
	定価=本体 2,800 円+税	
	お名前	
	ご住所	
お電話 / e-mail		

工作舎
tel.03-5155-8940
fax.03-5155-8941
e-mail: saturn@kousakusha.co.jp
www.kousakusha.co.jp